

第3回東京都脳卒中地域連携パス合同会議 議事概要

日時:平成22年1月9日(土曜日)午後2時から
場所:東京都庁第一本庁舎5階大会議場

<テーマ>多摩部で活用されているパスから症例提示・検討

〔南多摩保健医療圏脳卒中医療連携協議会〕(平成21年10月稼動)

- 転院先はほとんどが圏域内の病院である。
→圏域内に回復期、維持期の施設が比較的多いことが要因。
- 回復期リハ病院スタッフにパスの活用状況をアンケート調査。
＜アンケート結果＞
 - ◇パスのメリット
 - 第1位…情報の統一、共有
 - 第2位…メリットなし
 - ◇パスのデメリット
 - 第1位…業務量の増大
 - 第2位…情報量が少ない
- 業務量の軽減のため、様式の簡素化を検討予定。(診療情報提供書、サマリーとの統合など)

〔北多摩脳卒中連携パス協議会〕

- パス適応症例は不適応症例と比べて、平均在院日数が短い。
- パス導入後、患者の平均年齢が上昇。平均在院日数は短縮化。
- 在宅及び診療所までのネットワークを構築し、循環型の連携パスの完成を目指す。
- 今後の課題として、地域連携パスの定着・拡大、在宅医療の推進などが挙げられる。

〔北多摩南部脳卒中ネットワーク研究会〕

- パスを活用して急性期から回復期を経て在宅療養中の患者、その家族及び担当ケアマネジャーに対してインタビュー調査を実施。
＜調査結果＞
 - ◇急性期から回復期まで
 - ・約70%が14日以内に転院。
 - ・パスを利用した際の相談や説明は、患者の不安を軽減する。
 - ◇回復期から維持期・在宅まで
 - ・約80%が90日以内に在宅復帰。
 - ・軽症例でも生活背景が様々で、医療面以外の課題も抱えている。

〔北多摩北部脳卒中連携パス研究会〕

- 地域でリハビリに関わる施設、職種間で情報の共有化を図る必要があるため、患者のリハビリ履歴を記載する「リハビリ手帳」を作成、配布している。
- リハビリ手帳の利点
 - ・リハビリ履歴、住宅環境、福祉サービス利用の変化を総合的に理解できる。
 - ・患者、家族の安心感、意欲向上につながる。

〔西多摩地域脳卒中医療連携検討会〕

- 「患者からみた医療連携という考え方」、「リハビリの継続性、リハビリへの意欲の向上」等をテーマに、医療連携を進めている。
- 脳卒中医療連携リストの配布(医科、歯科、薬科、介護の各機関)
- 患者情報シートを作成、活用。
- 医療連携の実態把握調査(脳卒中医療連携アンケート調査)を実施。
 - ＜調査項目＞
 - ・患者情報シートの活用状況。
 - 発行件数の2/3は、他の機関で受け取り。
 - ・入退院時のADL比較。
 - ・各施設のリハビリ効果の評価 など
- 在宅復帰後、廃用症候群になるケースが多々見られるので、今後、生活リハビリを重視していきたい。開業医、ケアマネ、ヘルパーの関わりが重要。

総合討議から

パスの統一化についてはそれぞれ総論賛成。